

生活環境影響調査結果 中間報告

1. 調査時期

調査時期は、表 1 に示すとおりである。調査は令和 7 年の 1 月（冬季）から 1 年間実施する。令和 7 年 1 月の冬季調査として、粉じん、NO₂、SPM、水質（河川）、水質（地下水）を、令和 7 年 4 月の春季調査は水質（河川）、水質（地下水）を、令和 7 年 7 月の夏季調査は、粉じん、NO₂、SPM、悪臭、水質（河川）、水質（地下水）を、令和 7 年 1 0 月の秋季調査は騒音振動、交通量、水質（河川）、水質（地下水）を実施する予定である。風向・風速及び地下水位は令和 7 年 1 月から通年で調査を行う。

表 1 調査時期

実施 内容	冬			春					夏			秋					冬													
	令和 7 年															令和 8 年														
	1 月			2 月		3 月		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月		11 月		12 月		1 月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
粉じん																														
風向・ 風速																														
NO ₂ 、 SPM																														
騒音 振動																														
交通量																														
悪臭																														
水質																														
地下水 (地下水位)																														
地下水 (地下水水質)																														

実施済

2. 調査結果

■粉じんの調査結果

- 冬季調査結果では 1/31（金）が他の測定日より高い値を示している。
- 参考とする技術上の基準値と比較しても十分低い値で推移している。

■風向の調査結果

- 冬季調査結果における風向は東北東からの風が最も多く見られた。
- 粉じんが舞うとされる風速 5.5m/s 以上の風はなかった。

■大気質の調査結果

- 冬季調査結果では浮遊粒子状物質（SPM）、二酸化窒素（NO₂）のいずれも各項目において環境基準値より低い値であった。

■水質（河川）の調査結果

- 冬季調査結果においては環境基準値を超過している項目はなかった。
- 春季調査結果では、建設候補地（放流後）の大腸菌数が基準値を超過していたが、その他の地点・項目においては基準値を満足していた。

■地下水水質の調査結果

- 冬季調査結果では環境基準値を満足していた。
- 春季調査結果では環境基準値を満足していた。
- R06-6（最下流）の溶存イオン濃度は他の地点より高い傾向がみられた。

